

一般財団法人 東京都スキー連盟

## 2020 年度テーマ “プラスワンからオンリーワンへ”

一般財団法人 東京都スキー連盟  
会 長 岡部 直士

前年度に引き続き 2020 年度も上記テーマの基“会員の為の組織・各事業、しいてはスキー界の発展の為にスピード感をもって変革の具現化”を目指していきたいと思います。その基本的な考え方は“会員ファースト”です。掲げさせて頂いた全体事業並びに重点事業の考え方、そして進捗状況をご説明させて頂きます。尚、昨年当初に所信としてお伝えした部分を再度ご確認ください、以下に記載させて頂きました。

### ☆継続したテーマ：プラスワンからオンリーワンへ

基本的な考え方は昨年同様で、将来の変化に対応出来る組織を構築し、軸がぶれずに挑戦し続けることが会員の為であり、継続して頑張ってもらえた先輩方への「感謝」であり、私たち役員に与えられた使命であると思います。

その為には、連盟としての歴史ある各事業に「価値的なプラスワン」を加味し、その結果「オンリーワン」を目指し成長させていく事が重要であると考えます。

継続事業でも「誰のため」「何のために」を明確にし、プラスワンの価値観の創造を求めた活動をさすものであります。

「考え方」が変わると「行動」が変わり、「行動」が変わると「人格」が変わる。「人格」が変わると「人生」までもが変わっていきます。そこに活動の真の「オンリーワン」が誕生すると思えます。

それが、「プラスワンからオンリーワンへ」です。

### ☆バランス・リズム・タイミングのある事業並びに運営

この三つの要素は、「スキー運動の質的内容の三大要素」です。連盟運営の基本的な姿勢もこの三大要素の考え方と同じであり、組織運営にも欠かせないものと考えます。

バランスとは、各年代層に広がっている会員、連盟全体で取り組む事業並びに各部主体で行われる事業等の「バランス」、リズムとは一年間の中で各会員が集中し楽しむことが出来る強弱のある「リズム」、タイミングとはタイムリーな活動による変化に対応した「タイミング」、それらは、組織運営並びに事業実施の基本と捉えており、以上を基本に様々な事に取り組んでいこうと考えます。

東京都スキー連盟の目的は「スキー等のスノースポーツの正しい普及、振興を図り、生涯スポーツとしてこれらのスポーツを通じて、都民の体力向上と心身の健全な発達に寄与すること」と定款に定められております。そして、その目的達成の為に具体的に8つの事業を実施する事となっています。

それらを実行し運営するために都連組織の中に総務本部・教育本部・競技本部があり、目的に合った各種の事業を実施しております。財政的な基盤を盤石なものとした上で、「全体で取り組む事業：全体事業」、「各部が主体となって取り組む事業：重点事業」を明確にしたいと思っております。その実施理念は「何のため」「誰のため」と組織としての明確な方向付けを示しながら計画をしていく事と考えます。その為に以下の事業を具現化し、結果にこだわって行きたいと思っております。

#### ☆全体事業として

- ・スポーツ文化の普及・発展と其中での連盟組織の明確な役割の構築
- ・ガバナンス・コンプライアンスの強化及び徹底
- ・全日本スキー連盟との連携強化
- ・都連会館建設の実現性への具体的な提案

#### ☆重点事業として

- ・各部専門員のスキルアップへの具体的な取り組み
- ・強化選手（競技関係及びナショナルデモ）の育成への具体的な取り組み
- ・生涯スポーツの明確な位置づけと普及への具体的な取り組み
- ・ジュニア育成事業及び競技への具体的な取り組み
- ・マーケティングの強化と具体的な取り組み

以上を具現化すべく努力しております。

捉え方及び進捗状況は

#### ☆全体事業

- ・スポーツ文化の普及・発展と其中での連盟組織の明確な役割の構築  
各事業が往々にしてありがちな継続事業に対しての消火的な取り組みから、スポーツ文化に関わっていることへの自覚と共に各事業の目的を明確化し、理事の方々、必要に応じて専門員の方々とも様々な角度から議論し進めさせて頂いております。
- ・ガバナンス・コンプライアンスの強化及び徹底  
ガバナンス：組織的に携わっている関係者とその相互作用や意志決定により間違った概念を生んでしまうことが、スノースポーツ界にも起こっており、

そして、コンプライアンス（法令順守）、ハラスメントなどに関しても同様であります。今の時代に合った考え方、対応の仕方などを理事会及び倫理委員会と共に防止策・対応の仕方などを模索しております。

- ・全日本スキー連盟との連携強化

全日本スキー連盟への都連出向理事、評議員、専門員を通して連携ハードルを低くするよう努力しています。しかしながら、今回の会員管理システム（方向性としては間違っていないと思います）への移行は余りにも急な変更であり、情報の共有がないままの実行であった為、連携ハードルが必然的に高くなり、その対応に苦慮しているのが現状です。双方からのアプローチの在り方を検討したいと思います。

- ・都連会館建設の実現性への具体的な提案

会員の為のレガシーとしての都連会館の実現性を検討しています。投資対効果を考慮しつつ、現時点で具体的な提案（現時点で5か所）を頂いております。これからは、担当委員会などの設置の検討も必要と思っております。

## ☆重点事業として

- ・各部専門員のスキルアップへの具体的な取り組み

研修会終了後のトレーニングを実施しスキルアップを目指しております。

また、会員サービス向上に繋がる技術力向上のためのトレーニング（5回予定）を実施する予定です。

- ・強化選手（競技関係及びナショナルデモ）の育成への具体的な取り組み

ナショナルデモ排出の為にSAJデモの育成強化を図り、具体的には岡田利修氏をコーチに迎えたトレーニングを実施いたします。また、全日本技術戦でのパフォーマンス向上を目的とした全4回の合宿を実施する予定です。競技関係は強化指定選手育成強化の為、技術力向上のセミナー（技術と理論）を実施し、昨年までの冬季オリンピックアルペン競技に3回出場し、北京オリンピックも目指している湯浅直樹選手をコーチに迎える予定です。

- ・生涯スポーツの明確な位置づけと普及への具体的な取り組み

現在若い現役世代も何れは年齢を重ね、競うスキーから安全で楽しいスキーへと移行していきます。指導員研修会等においてスノースポーツを継続することの楽しさを伝授しております。また、マスターズ技術戦及び各種大会において配慮のきいた運営を心掛け、参加して良かったと思えるものにしていきます。

- ・ジュニア育成事業及び競技への具体的な取り組み

“Yukids プロジェクト”を立ち上げ“子供が主役—チルドレン・ファースト”の具現化をして参ります。

そのコンセプトは①スノースポーツから子供の発見を導く ②自律 ③マナーと感謝 の三つであり、そこから人間力を育むための取り組みをし、そして目標設定を明確化すると共にその目標に対してのスケジュールを明確化致します。その中で、試合及びトレーニングの割合を考え、陸上トレーニング、雪上トレーニングの質を可能な限り高めていきます。また、それらを実施するための環境整備を整えて参ります。

- ・マーケティングの強化と具体的な取り組み

様々なステークホルダーの皆様とのコミュニケーション、関係構築を通して、よりよい都連活動に繋げていくためにマーケティングプログラムの整理、見直しを進めています。これまで大会への協賛や物品提供によるご協力、刊行物の広告協賛、個々の賛助会員としてのご支援等をいただいておりますが、この輪をさらに大きなものとするためにも東京都スキー連盟の価値、ブランディング向上に向けて都民、会員へのアプローチ、社会貢献等も重要な取り組みと位置づけ、様々な活動を検討、推進していきます。

今後ともご理解、ご協力をお願いいたします。